

# 提 案 概 要

(到津の森公園 指定管理者)

団体名： 公益財団法人北九州市都市整備公社

## 1 指定管理者としての適性について

<p><b>(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針</b></p> <p>◇基本理念「市民と自然とを結ぶ『窓口』となる公園をめざす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本来の生息環境を模した動物展示、貴重な自然(郷土の森)を保全・活用を通じ、来園者が様々な動物や自然とふれあうことのできる施設づくりを目指す。</li> <li>○地域に根付いた動物園として多くの方々に支援していただける「日本一美しい動物園」を目指す。</li> </ul> <p>◇基本方針① 自然環境やどうぶつとのふれあいを通じて命の大切さなど学習する「<b>自然環境教育施設</b>」とする「環境学習プログラム」(動物ガイドや体験活動等)などの実施により、自然環境に関する様々な学習機会を提供する。</p> <p>◇基本方針② 市民や企業等から様々な協力が受け入れられる「<b>市民が支える公園</b>」とする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友の会(動物サポーター、基金)などの「金銭的支援」、動物飼料などの「物的支援」、市民ボランティアなどの「人的支援」等、「市民が支える公園」として、様々なサポートや協力を得て施設運営を行う。</li> </ul> <p>◇基本方針③ 良質なサービスを継続的に提供するため「<b>効率的な運営</b>」を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員の勤務体制の見直し、委託職員(ゲート、駐車場警備など)の柔軟な配置、自前作業への切替(費用対効果のあるもの)、徹底した経費削減による効率的運営を行う。</li> </ul> <p>◇動物の飼育・展示に関する考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○飼育:「個体管理台帳」や「診療簿(カルテ)」による健康状態の把握、情報共有/「疾病管理マニュアル」による計画的診療/「作業マニュアル」などによる安全管理の徹底</li> <li>○展示:「人に伝える、人に伝わる動物展示」(生息環境を思わせる展示環境整備、動物らしい行動・能力を引き出す遊具等の設置、解説表示板掲示や動物ガイド・エサやり等)/毎年作成の「動物展示飼育計画」による繁殖調整や他園との動物移動(導入、交換、放出)</li> </ul>
<p><b>(2) 安定的な人的基盤や財政基盤</b></p> <p>◇人的基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大型動物や猛獣などの飼育・獣医業務、庶務・経理、施設管理業務等に経験豊富な職員が多数在籍</li> <li>○「理事会」「評議員会」による、適正な園運営を行うためのガバナンス確保</li> </ul> <p>◇財政基盤</p> <p>経営化安定基金(1億円)や基本財産(2億円)など正味財産約6億円を保有</p>
<p><b>(3) 実績や経験など</b></p> <p>◇受託施設</p> <p>志井ファミリープール/響灘緑地/山田緑地など11施設の管理実績あり</p> <p>◇指定管理施設</p> <p>到津の森公園/ひびき動物ワールド/響灘緑地など6施設の管理実績あり</p>

## 2 管理運営計画の適確性

【有効性】に関する取組み
<p><b>(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み</b></p> <p>◇施設管理・事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「安全」「衛生」を重視した施設管理</li> <li>○集客広報型事業(七夕フェア、花火ファンタジー等)/来園者サービス型事業(おやつタイム、動物のタッチタイム等)/講座教室体験型事業(ゆめある動物園プロジェクト等)/団体集客型事業(環境学習プログラム)/支援醸成型事業(ファン感謝イベント等)/地元還元型教育事業(実習受入、職員派遣)</li> <li>※目標入場者数(26～28年度:38万人 29～30年度:39万人)</li> </ul> <p>◇エリア別の動物管理計画・植栽管理計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各エリアのコンセプトにあった展示水準の維持改善/適正な展示数の維持</li> <li>○「郷土の自然エリア」「世界の自然エリア」「ふれあい動物ゾーン」など、それぞれの特性にあった植栽配置/来園者が展示動物の生息環境に自然に入り込んでいけるような景観を演出</li> </ul> <p>◇政策支援【マダガスカル共和国との希少動物保護事業】</p> <p>これまで蓄積された飼育・繁殖技術のほか、勉強会、職員派遣により習得した知識・技術を利用/事業における教育啓発活動(小学生向け学習プログラム)</p> <p>◇政策支援【環境学習プログラム等】</p> <p>一般来園者向けプログラム(動物物語、里のいきもの探検隊等)/一般団体向けプログラム(バックヤードツアー、えさやり体験等)/学校団体向けプログラム(動物の赤ちゃん、生息地の状況等)等を実施</p> <p>◇利用者の増加や利便性を高める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者の増加:集客のためのPDCAサイクルの確立/営業と集客の直結型事業の開発</li> <li>○利便性:手作り傘の貸し出し/オリジナルグッズ等の開発</li> </ul> <p>◇ひびき動物ワールドとの連携</p> <p>環境学習プログラムの開発/両園でのイベント告知/動物の移動調整/飼育員間の技術交流/学術共同研究</p> <p>◇営業・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○遠足時期を想定した各団体への誘致活動/旅行代理店との連携/観光協会と協働での修学旅行誘致/ホテル、新聞社等への前売券の販売拡大</li> <li>○幼稚園・小学校等へのポスター・チラシ配布/マスコミへのこまめな情報提供/HP等を利用した情報発信</li> </ul>
<p><b>(2) 利用者の満足度</b></p> <p>◇利用者の意見把握、反映</p> <p>アンケートの実施、新たな来園者の開拓</p> <p>◇苦情対策等</p> <p>速やかな対応、職員間での情報共有等による再発防止</p> <p>◇利用者への情報提供</p> <p>ゲートお知らせ看板(イベント・動物の展示情報等)/動物解説表示板/園内放送(イベント告知等)</p> <p>◇その他サービスの質を維持・向上するための具体的な提案</p> <p>目的に応じた順路設定/園内マップの充実/石油ストーブ・ミストの設置/「友の会会費」の自動引き落としシステムの構築/飲食・物販の充実/効率的な園内放送(緊急放送など重要なお知らせの伝達)</p>

<b>【効率性】に関する取組み</b>
<b>(1) 指定管理業務に係る経費</b>
◇支出(管理運営費等):390,195 千円 ◇収入(利用料金・自主事業収入等):308,554 千円、◇指定管理料:65,000 千円
<b>(2) 経費の低減や収入の増加に向けた創意工夫</b>
◇経費低減 企業等とのタイアップ事業の実施/エサの確保(廃棄農産物を回収する仕組みづくりを検討)/季節変動型営業時間の提案
◇収入増加 有料入園率の向上/自動販売機契約の見直し(協賛金確保)/企業・団体からの協賛金確保/飲食・物販見直し(レストラン運営業者のコンペによる選定、ショップの将来的な直営化)/移動販売車等の拡大
◇支援制度における加入件数及び金額増加への取組 会員限定イベントの実施・充実/新規入会キャンペーンの実施/地元企業や団体等への勧誘活動や街頭での勧誘PR等

<b>【適正性】に関する取組み</b>
<b>(1) 管理運営体制など</b>
◇管理体制 統括責任者(園長)1名、獣医師2名、飼育職員19名他事務スタッフなど38名で運営
◇職員の資質・能力向上 ○ 日本動物園水族館協会の実施する飼育研修への参加 ○ 外部講師による接遇研修等の実施、応急対応講習等の実施
<b>(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など</b>
◇個人情報保護:情報保護規程に則った個人情報の保護
◇平等利用:地方自治法第244条第2項、第3項の主旨に則った管理運営
◇安全対策:定期保守点検の実施/職員の労働災害防止/食品衛生管理の徹底/動物逃亡時・感染症対策
◇危機管理体制:巡視による個別点検の実施/災害時対応訓練の定期的実施

**提案額 (千円)**

26年度	65,000千円
27年度	70,000千円
28年度	80,000千円
29年度	85,000千円
30年度	85,000千円

※提案概要は、提案書の内容を2枚程度(A4)にまとめてください。